第３回学校運営委員会（書面開催）　議事録

令和４年３月

学校評価今年度の目標	ご意見等
・「主体的・対話的で深い学び」について、教育活動に具体的に反映する。 ・児童生徒の実態を校内で共有できるようにする。	○達成意識が大きく上がったのは良かったと思います。集計結果ですので、結果のみが示されているわけですが、「主体的・対話的で深い学び」に向けての「仕掛け」が示されているとわかりやすいかと思います。その仕掛けの中で、例えば「授業改善チーム」という組織があったとか、授業改善に向けてのアドバイスの仕組みができていて、コーディネートをする人も決まっていて、その人たちを要にして授業改善を進めましたというようなことがあれば良いと思いました。 ○ 現在の方向性を今後も継続発展させていかれることを望みます。 ○ 教育の方向性についてにかかわる項目への教職員の皆さまの達成感がうかがえます。「主体的・対話的で深い学び」の理解に基づく教育活動の改善が進むことを期待しています。 ○ 自分に自信をもち、他人との繋がりを喜べるような力を養っていければよいなと思います。地域や社会のなかで生きていく力が養われることに向かっていくとよいと思います。
・担任と専門職が連携した児童生徒支援を行う。 ・情報共有を大切にし、意見を言い合える風通しの良い職場環境を構築する。	○ 教員の方同士のコミュニケーションでブリーフィングも大切だと思います。風通しよく、悩みを共有・相談しやすい環境つくりが有効と考えます。 ○ 支援は多角的にとらえていく中でより具体化し、課題も見つけやすくなります。 ○ 保護者が学校や先生に相談のしやすい環境があり、良いと思います。
・進路支援に関する校内システムの整理に取り組む。	○ 社会情勢は流動的で捉えにくくなってきていますが、将来の方向性はそれらをキャッチしながら進めていくことが常に求められます。 ○ 早期（早ければ、小中学部）からの英語、ＰＣ、キャリア教育が必要かと拝察致します。 ○ どのような進路があるか、忙しいので難しいかもしれませんが、教員の方々には知っていただき、保護者、生徒にも情報がよく伝わるようにできると良いと思います。
・感染等のリスクに対応し、安心安全な教育活動を実施する。 ・地域に貢献する教育活動や防災の取り組みを進める。	○ 地域との連携に関する項目でのＣの評価が目立ちますが、例年との比較の中で物足りなさを感じているのであれば、コロナ以前の御校の取り組みを再評価する結果とも取れます。従来の連携の再開も視野に入れながらも、コロナ禍でも可能な連会の在り方を探ることが、今後の展開に必要ではないかと思います。 ○ 自治会として重要なテーマと言えます。日頃から関わりが持てるような取り組みが見い出せると良いと思います。 ○ 市役所や地域の資源を最大限活用できるセーフティーネットを広げ、保護者の孤立を防げば、インクルーシブな地域支援が実現できると思います。自衛隊の方に頼めば無料で防災講話を工夫して行ってもらえます。とても楽しくお話して下さるのでおすすめです。

	○ コロナウィルスの感染防のため、困難な状況にありますが、「地域」の側と学校が、ともに話し合っていける機会が必要かと思います。
・外部機関と連携し、安全で信頼される学校づくりに取り組む。 ・誰もがわかりやすく、使いやすい教育環境・職場環境を構築する。	○ 外部からの第三者の視点は、自己評価をさらに高められる良い機会となります。ぜひ、今後も継続して欲しいと思います。 ○ ２０年たち、建物も古くなってきた印象があり、今後、どうだったらよいのか早めに課題を掴んでおくといいのではないでしょうか。
学校運営協議会の在り方、本校全般に関してのご意見等	○ 保護者アンケートの③地域のこと進路のこと授業のこと等については、進路に関しては記載がありますが、広報や情報の発信について意図的に増やしていく必要があると思います。また、保護者との関係については、PTA の有機的な活用も考えられると思います。 学校運営協議会の在り方については、今後も学校運営協議会の意義を踏まえた取り組みが重要かと思います。茅ケ崎養護学校につきましては、義務教育段階の児童生徒の人数は減っているのに特別支援学級や特別支援学校の在籍児童生徒数は増えていて特別な配慮を必要とする児童生徒への対応も重視されてきています。そのような状況で、茅ケ崎養護学校は、多様で柔軟で児童生徒の課題に応じた取り組みがいっそう求められると思います。 ○ 回答を書きながら、自分の学校のことを振り返っています。本来あるべき取り組みや従来の取り組みとは異なるものを求められる日々ですが、こちらも負けずに励んで参ります。今後とも連携を含めお力添えをお願いします。 ○ 卒業後が生徒たちの人生を決定付けますので、在校時間は貴重だと思います。将来をよく見据えてヘレンケラーとサリバン先生のように、時には厳しく温かく接する覚悟で、お一人お一人の進歩（わずかなものでも）を目指すことで、障害も軽減されていくと信じています。会社でも「就労は障害を軽減する」という理念で社員たちは通勤しています。今こそ「生きる力」です。 ○ 産学協同で、具体的な取り組みを通して、今あるいは今後必要となるであろう事柄への備えをしている姿勢に共感しました。また、自治体として参画していることが、もっと生かせる関わり方を考えていく必要性があると感じました。 ○ 書面を拝読させて頂き、大変よく成果が出ていて良いと思います。コロナ禍の中、先生方の大変さが紙面を通じて伺えました。ご苦労様でした。 ○ 職員アンケートでは｛ほぼ達成｝という評価という事で、コロナ禍で大変な中、子どもたちに向き合って下さった事に感謝しております。今後もたくさんの困難な状況があるかと思いますが、先生方のご健康と笑顔を子どもたちとたくさん広げてほしいと願っています。委員の皆さまのお話もとても勉強になりました。 ○ 保護者アンケートの結果をみると、多くの生徒が学校にいくのを楽しみにしており、個別の教育支援計画関連の評価も高く、保護者・生徒から学校がとても信頼されてい

	る様子が伺えます。日頃の学校の取り組みや、教職員の方々の姿勢がこのような評価に繋がっているのだと思います。人生の土台をつくる大切な時期に、自分に自信の持てる肯定感が養われる環境があり、よいと思います。